

実践記録

140

シリーズ

「阿賀町学びあい支えあい事業」

阿賀町教育委員会社会教育課 主任 西川 利之

●事業のねらい、目標

中山間地といわれる地域の特性を生かしながら、高齢者から昔の遊びを教わったり、地域の自然や素材を生かした活動を行い、住民同士の連帯感やきずなを深め、互いに顔の見える地域を育成し、地域教育力の再生を図ることを目標にしました。

●事業の概要

◎手作りおもちゃと昔あそび体験

地域の高齢者の方々から、昔の遊びを教わりみんなで一緒になって遊びました。活動には、高校生や一般のボランティアの方も参加し一緒に汗を流しました。



写真は、自転車の輪っかを使った「輪っか回し」と「サンギ足※竹馬」です。体育館の中では、コマ作り、ペットボトルを使った遊びを行いました。

◎川と鮭を活用した環境学習活動

春先の稚魚放流から始まり、その後の事業の展開を実行委員で協議し、「鮭のつかみ取り」「採卵・受精」体験をさせたいと意見がまとまり事業を行いました。当日は、事前に準備した川の浅瀬に親鮭を放流し、子どもたちに鮭のつかみ取りを体験させ、その後、川原で採卵・受精を行い、容器に小分けした受精卵をそっと小川に放流しました。

活動終了後、役割の終わった親鮭を活用し、ボランティアさんから手伝ってもらって「鮭の料理教室」を行いました。参加した子どもたちは、テレビで見たことはあるが、本物は初めてで緊張した、卵がふ化して、またこの川へ戻ってくるよう、川をきれいにしたい、という意識が向上したようです。



◎地域再発見と課題の訪問活動

合併後新しくなった町をマイクロバスで見てまわり、地域の見どころや行政施設を訪問し、自分

たちの住んでいる地域の良さや問題点を再発見しました。面積がかなり広い地域なので、「生まれて初めて来た。」といった声や、マイクロバスの中で地域の井戸端話が盛り上がっていました。

◎地域素材を利用したボランティアで支える地域興しイベント

地域の素材（畑で余った野菜）を利用し、なんとか地域の連帯感を高めることができなかと会議で話し合いを行い、閑散としてきた文化祭も盛り上げられということで、ボランティアの方々畑で余った野菜を収集し、文化祭会場で無料の豚汁を振る舞いました。

●成果と課題

地域の高齢者と小学生との間に、温かい関係が生まれました。道端やお店でも出会っても「竹馬の先生」などとあいさつが交わされるようになりました。子どもたちも、おじいちゃんやおばあちゃんが器用に物を作ったり、コマを回したり、竹を裂いていったりと、自分の親より凄いのびっくりしていました。高齢者の方々も、「年寄りの冷や水」と言われないうような頑張りが少々疲れたが、子どもと接する時間が楽しかった、次は何をしようか等と嬉しい話が聞けました。

色々な事業を通じ、参加者同士が顔見知りになり、余った畑の野菜がボランティアの手によって皆さんから喜ばれるものに変身しました。また、鮭を通じた環境学習会では、地域のシンボルである「阿賀野川」をきれいにし、魚も私たちが住みよい自然を育てて行こうという小さな心が芽生えてきました。

今回は、大勢のボランティアさんに協力をいただき、小さな町でも心ある方が大勢いるのだということがわかり、大変よかったです。なによりも、ボランティアの方々が、「次も協力するよ！」と言ってくれた言葉は有り難かったです。

課題はやはり人づくりです。ボランティアとして動いてくださる方々は今回の事業で把握でき、次も協力してくれる、と有り難い言葉を頂いています。また、参加者も内容によって集まり具合に偏りがありますので、イベントの内容を吟味し目標を定める必要を感じます。そして、仕掛け人の育成の契機になるよう取り組んでいきたいと思ひます。